



山本支所「蔵」所蔵文書の調査

飯田市役所山本支所の「蔵」には、明治維新前後から戦後にかけての旧山本村（1956年に飯田市に合併）の役場文書が、大量に所蔵されています。今回この「蔵」の1階が地元商工会の事務所に改装されるのに伴い、これまで1階に所蔵されていた文書を整理し、2階に保存することになりました。歴史研究所ではこの作業のため、9月18日から20日までの3日間、一橋大学経済学部森武磨ゼミナールの6名と国際基督教大学の院生2名の協力を受け、調査を行いました。

》》 「蔵」所蔵文書の内容

戦前および戦後11年間分の文書に関しては、既に『山本村史』を作るために目録作りなどの整理がなされ2階に所蔵されています。「蔵」1階には、農家台帳、民生委員、簡易水道、衛生組合などに関する戦後の地域社会や地方自治を考える上で貴重な史料が数多く残されていました。

》》 作業の内容

- 1 ラベル付け ラベルを文書に接着します。歴史資料を傷めず、経年変化のない特殊な糊とラベルを用います。
- 2 文書番号の設定 以前文書が置いてあった位置が分かるように、場所ごとに文書番号を付けます。文書が置いてあった場所が、意味を持っていることがあるからです。
- 3 目録作成 文書の表紙に書いてあるタイトル、大まかな内容を記録用紙に書きます。これをパソコンに入力し、文書の検索をやすくします。

》》 単位地域プロジェクト



歴史研究所では、「単位地域プロジェクト」として、小学校区単位の文書の整理・保存を推進しています。小学校区が地域の人々の生活空間のひとつであると考えているためです。座光寺地区では、既に地元の方が中心となって、文書の整理・保存を行い、

先進的な事例となっています。今回の山本支所の史料整理で、「蔵」文書はさらに利用しやすくなりました。歴史研究所では、地域の成り立ちを考え、未来に活かすために、地元の方、学生、研究者など様々な方に利用していただきたいと考えています。



》》 参加者の感想

今回の調査に参加した方々に感想を聞きました。

- ▷ 森 武磨さん(顧問研究員・一橋大学教授)
「蔵などに所蔵されている1次史料の分析の上に歴史研究がある。ゼロからの積み上げを学生に実感してほしかった。」
- ▷ 上村真太郎さん(一橋大学3年)
「歴史というのは、こういう地道な作業の積み重ねによってなりたっている。各地で行った積み重ねによって、日本全体の歴史が作られていることを感じた。」
- ▷ 篠原将成さん(国際基督教大学大学院)
「史料を見ていく中から、新たなテーマを見つけるということを感じた。それがフィールドワークの醍醐味だと思う。」



4 (第29講座) 12月16日(土)・17日(日) イタリア都市の歴史と生活文化

講師:陣内秀信さん(法政大学教授)

- 1 ヴェネツィア ー水上の迷宮都市
- 2 ヴェネト都市の生活空間
- 3 ナポリとアマルフィ ー海洋都市の過去と現在
- 4 プーリア地方の都市空間

長い都市の歴史を誇るイタリアには、この国土の中に、魅力ある都市が数多く存在しています。特徴あるいくつかの地方を対象に、陣内研究室で行ったフィールド調査の成果にもとづきながら、それぞれの都市の成り立ちと魅力の秘密を、歴史の視点と現在の人々の生活の視点から、描き出します。

5 (第30講座) 1月20日(土)・21日(日) 近世庶民の日記を読む

講師:大口勇次郎さん(お茶の水女子大学名誉教授)

江戸時代の庶民の生活を知る資料として「日記」があります。村名主の元に残る公的な史料は、領主が如何に村を通じて土地と住民を掌握したのかを知る材料ですが、この他に農民たちは「耕作日誌」「大福帳」など自分たちの生活を様々な形で私的に記録しています。今回は、一例として江戸近郊の名主宅で代々書き継がれてきた「日記」を紹介し、江戸城大奥に勤めた姉と、江戸で漢学を学んだあと村に帰って名主になった弟の姿を通じて、江戸時代を考えてみたいと思います。

6 (第31講座) 2月17日(土)・18日(日) 描かれた近世都市

講師:杉森哲也さん(放送大学助教授)

「都市の時代」といわれる日本の近世には、都市の諸相を描いた屏風絵である都市図屏風が数多く制作されました。京都の市中と郊外の風俗や名所を描いた「洛中洛外図屏風」、織田信長の城下町・安土を描いた「安土図屏風」、ヨーロッパの諸都市を描いた「世界図・都市図屏風」などです。これらの作品をスライドで紹介しながら、都市を屏風絵に描くということの歴史的意味、日本とヨーロッパとの交流、近世の都市の歴史などについて考えます。

7 (第32講座) 3月17日(土)・18日(日) 中世一揆の世界

講師:久留島典子さん(東京大学史料編纂所教授)

日本中世の一揆は、百姓一揆のみとなる近世とは異なり、様々な階層において一つの目的のために盟約を結ぶことで成立していました。そのなかには宗教的一揆(一向一揆)、領主層の一揆(国人一揆)、都市民衆の一揆(土一揆)、村落の一揆(「荘家の一揆」)など多様な形態を示す一揆が存在します。こうした中世一揆の多様性と共通性を抽出しながら、近世社会に向けて、否定されていく要素、形を変えながらも引き継がれていく要素を探ります。

■時間 1日目(土) 13:30~17:00
2日目(日) 10:00~14:30
※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■会場 飯田市歴史研究所(飯田市役所上郷支所庁舎)
3F会議室

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)
※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1000円)

■申込方法 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。
※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。

10月の月例研究会

月に1度、研究所員が研究内容を報告し、参加者が自由な意見交換をする研究会です。事前の申し込みは不要ですので、気軽にご参加下さい。

■テーマ 「外国人労働者を引き寄せる飯田・下伊那」
■報告者 本島和人 調査研究員
■日時 10月21日(土) 午後2時~4時
■場所 歴史研究所研修室

飯田・下伊那には現在約4,000人の外国籍住民が暮らしています。人口流出が進行する一方で労働力としての外国人を引き寄せているのはなぜでしょうか。戦前から現在までをたどりながら、世界とのつながり、日本の中でのこの地域の特徴、社会・経済構造について考えてみたいと思います。

歴研ゼミだより

8月・9月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史 ゼミ	8月1日 「近世農民の財産について」	■テーマ 近世下伊那の民衆生活史
	8月22日 「寛文四年米川入野池山山論」	■開催日 隔週火曜日
	9月5日 「潰百姓の始末に苦勞する代官所と村」	■時間 午後7時~8時40分
	9月19日 「宝永地震における飯田城の被害」	■担当 多和田雅保(研究員)
近現代史 ゼミ	8月24日 堀口樹富さんの聞き書き	■テーマ 地域社会史入門~飯田町の記憶を探る
	9月14日 南信新聞記事を読む	■開催日 隔週木曜日
	9月28日 堀口樹富さんの聞き書き	■時間 午後7時~8時40分
現代史 ゼミ (英語文献講読)	Nationalism as ideology	■担当 田中雅孝(調査研究員)
	8月2日 国民国家と飯田下伊那の普通選挙施行	■テーマ 地域社会とグローバリゼーション
	8月26日 郷土史・地方史	■開催日 隔週水曜日
	Nationalism as a movement	■時間 午後7時~8時30分
	9月4日 地域主義の展開	■担当 鬼塚博(研究員)
	9月20日 飯田下伊那の地域右翼運動	



顧問研究員・東京大学史料編纂所教授。専門は日本古代史、地域史研究、古典籍研究、目録学研究。編著に『禁裏・公家文庫研究』1・2輯がある。

飯田市域の「古代史の謎」を解く鍵

10巻本『伊呂波字類抄』(最新の説では12世紀後半に成立)世篇諸寺部善光寺項には、信濃国人若麻績東人が、推古天皇10年(602)に上洛下向し仏像を背負って麻績村に帰り着き寺を造って仏像を安置し、40年後の皇極天皇元年(642)、水内宅の庇に仏像を移し、直ちに草堂を造り仏像を安置したが、仏像が宅の庇に戻っていたため、宅を寺に改造したという善光寺創建に関わる靈験譚が見える。伊那・更級両郡に麻績郷があるが、麻績村=伊那郡内説に立てば、最初に仏像が安置された寺は飯田市座光寺の元善光寺(寂光寺カ)に繋がる。若麻績と大麻績、若日下と大日下、若舎人と大舎人、といった対応関係がみられ、「若^(稚)」とは若君・若子の意、王族や身分の

高い家の男の幼児に対する尊称で、「大」は大王との関係が深いという最近の研究を援用すれば、信濃国の若麻績氏は国造氏一族のうち大王家の王子宮^{みこのみや}に対する麻布の貢納に由来してウジ名を得た氏族となる。この他に伊那郡内には国造家の子弟として6世紀大王家の王宮に奉仕したことに由来する氏族として金刺舎人氏・他田舎人氏がいる。これらは宮号舎人と呼ばれ、東国、特に信濃と駿河に多く、両国には馬具副葬古墳が濃密に分布することから、大王家の親衛騎兵集団(東国舎人騎兵)との関係を想定する説もある。若麻績や若舎人、宮号舎人の研究は飯田市域の古代史の謎を解く鍵である。

第4回飯田市地域史研究集会

8月26、27日に追手町小学校講堂で開催した地域史研究集会には、延べ400名以上の方々に御参加いただきました。



1日目のシンポジウム「歴史のなかの町並みと建造物」では、信濃建築史研究室代表の吉澤政己さんが研究報告を行い、飯田を含めた信州城下町の武家屋敷の特色について発表されました。続いて建築家の安藤忠雄さんによる記念講演がありました。安藤さんからは設計と施工に関する御自身の体験について、多くのエピソードを交えながらわかりやすく御説明いただき、

まちづくりを行う上でどのような理念が必要かをお話いただきました。最後に伊藤毅歴史研究所顧問研究員によるコメントがありました。

2日目の研究報告会では、午前には建造物に関する3本の報告がありました。そのうち歴史研究報告では、この地域を代表する民家建築である本棟造が採り上げられ、その特色と魅力について述べられました。地元の建築士の方々による報告では、実践活動を通じた地域との積極的な関わりについてわかりやすく話されました。

午後は飯田・下伊那の歴史に関わる研究報告が行われ、江戸時代の家の相続、大日本実行会、戦後農協、遠山大地変と埋没林など、いずれもこの地域にまつわる重要なテーマについて優れた報告がなされました。

会場ではパネル展示「飯田建造物図集」と安田丈治氏によるアート展示があり、また「パストラル2」と「ソノール・クラリネットアンサンブル」によるコンサートも行われました。

飯田歴研賞 2006

飯田歴研賞は、飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動を表彰するものです。今年は次の4作品を選び、研究集会開会前に表彰式を行いました。

著書部門 最優秀賞	熊谷秋穂さん 『大陸流転ーふたつの戦争』 (信濃毎日新聞社、2005)	満洲の子供時代から逃避行、その後の中国での長い生活を経て昭和28年に引き上げるまでの体験が綴られ、日本と中国の現代史における貴重な歴史叙述として高く評価されました。
	長野県現代史研究会 『戦争と民衆の現代史』 (現代史料出版、2005)	満洲移民、菊地謙一の思想、女子青年団、労働組合運動、女性の生活記録など、民衆の視点から飯田・下伊那の現代史を分析した多くの論文が載せられ、その先駆性が評価されました。
奨励賞	座光寺古文書研究会	座光寺地区に残された支所文書を中心とする歴史資料について、調査と整理作業を行いながら、地域内外に広く公開するための方法を積極的に提言している活動が評価されました。
	一橋大学森武磨ゼミナール 「村報にみる戦時下の農村ー「三穂村報」を事例として」(『へるめす』57号、2006年)	農村経済更生助成村に指定されていた三穂村(現飯田市)について、第二次世界大戦期の状況を多角的に解明しており、多くの新事実を明らかにした点が評価されました。



第3回飯田市地域史研究集会シンポジウム「古島敏雄の人と学問」の講演記録や、地域史研究の成果を多数収録しています。

B5判 218頁
定価 1300円
飯田市歴史研究所 編
2006年9月発行

【内容】

- シンポジウム「古島敏雄の人と学問」
 - 論文
 - ・近世後期嶋田村における地主手作の諸条件
 - ・両大戦間期の第百十七銀行
 - 小特集・地域論の現在
 - 歴史的建造物調査
 - ・福島家住宅・脇坂門・川路八区諏訪社・代田家住宅
 - オーラルヒストリー
 - ・女性の生き方を学びながら
- ほか

販売所 歴史研究所、市役所庶務課行政資料コーナー、市内書店 問い合わせ 飯田市歴史研究所
(宅配希望の方は、実費で発送を承ります。) ☎ 0265-53-4670

歴研日誌

- 8月
- 1日 近世史ゼミ
飯田風越高校資料調査
 - 3日 上久堅小学校文書移管
 - 3日～4日 南信濃自治振興センター文書調査
 - 7日 現代史ゼミ
 - 8日 歴史講演会(下伊那教育会歴史委員会)で講演(清水迪夫)
 - 8日～11日 武蔵高校(東京都)研修受け入れ
 - 9日 座光寺史料調査
 - 22日 近世史ゼミ
 - 23日 現代史ゼミ
 - 24日 近現代史ゼミ
 - 26日～27日 第4回飯田市地域史研究集会開催

- 9月
- 5日 年報4号発行
飯田風越高校調査
近世史ゼミ
 - 6日 現代史ゼミ
 - 7日～8日 静岡県西富士長野開拓調査
 - 14日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
 - 12日～15日 清内路村下区文書調査(東京大学吉田伸之ゼミ主催)に参加
 - 15日 菊地謙一関係資料調査
 - 16日～17日 飯田アカデミア第28講座「歴史を活かしたまちづくり」開催。講師は西村幸夫さん(東京大学教授)
 - 18日～20日 山本支所文書整理
 - 19日 近世史ゼミ
 - 20日 現代史ゼミ
 - 24日 桃沢匡行氏から大政翼賛会関係資料等寄贈
 - 26日～27日 横浜国立大学大門正克ゼミ調査
 - 27日 信濃教育会調査
 - 28日 近現代史ゼミ

10月・11月の催事スケジュール

10月	2006	11月
日	1	水 現代史ゼミ
月	2	木
火	3	金
水	4	土
木	5	日
金	6	月
土	7	火
日	8	水
月	9	木
火	10	金
水	11	土
木	12	日
金	13	月
土	14	火 近世史ゼミ
日	15	水 現代史ゼミ
月	16	木
火	17	金
水	18	土
木	19	日
金	20	月
土	21	火 月例研究会
日	22	水
月	23	木
火	24	金
水	25	土
木	26	日
金	27	月
土	28	火 近世史ゼミ
日	29	水 現代史ゼミ
月	30	木 近現代史ゼミ
火	31	

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日